

## WHO ファクトシート

### ヒト・パピローマウイルス (HPV) と子宮頸がん

Human papillomavirus (HPV) and cervical cancer

2016 年 6 月

#### 重要な事実

- ・ヒト・パピローマウイルス (HPV) は、世界で最も一般的に見られるウイルス群の一つである。
- ・HPV には 100 以上のタイプがあり、そのうち少なくとも 13 タイプが発がん性を持つ。(これらは高リスクタイプとして知られる)
- ・HPV は主として性的接触によって感染し、ほとんどの場合、性行為開始直後に感染する。
- ・子宮頸がんは、性的接触により感染した特定タイプの HPV により引き起こされる。
- ・2 種類の HPV タイプ (16 及び 18) は、子宮頸がんと子宮頸部前がん病変の 70% を引き起こしている。
- ・HPV と、肛門、外陰部、膣、陰茎のがんと関連性を示す証拠もある。
- ・子宮頸がんは、女性にとって 2 番目に一般的ながんであり、2012 年には開発途上地域で約 44 万 5000 人が新たに発症していると推計される。(世界全体での新規症例の 84%)
- ・2012 年に、約 27 万人の女性が子宮頸がんで亡くなり、その 85% は低・中所得国で発生している。
- ・多くの国で HPV16 と 18 に対する予防ワクチンの使用が承認されている。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Human papillomavirus (HPV) and cervical cancer ファクトシート原文は[こちら](#)